

科学教育研究レター



目次

■ 総会	■ 事務局からのお知らせ
第29回定時総会開催通知	9
第29回定時総会議案	2
■ 案内	■ 研究会だより
公開シンポジウム	平成17年度
懇親会へのお誘い	第1回研究会開催のお知らせ
6	10
6	第2回研究会開催のお知らせ
	11
	第3回研究会開催のお知らせ
	11
	平成17年度
	研究会開催予定
	12
■ 年会	■ 広報委員会からのお知らせ
第29回年会案内（第6次）	12
7	
■ 理事会だより	
第213回理事会報告	8

下記により、第 29 回日本科学教育学会定時総会を開催致します。会員各位のご参加をお願い致します。なお、ご参加されない場合には、同封の委任状にお名前、議案の賛否を記入し、ご捺印の上、50 円切手を貼って、折り返しご投函下さい。

記

会員各位

2005 年 7 月 15 日
日本科学教育学会
会長 小川 正賢

日 時：2005 年 7 月 30 日（土）12:45 ～ 13:45
会 場：学術総合センター 2F 千代田区一ツ橋 2-1-2
交 通：東京メトロ半蔵門線 / 都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A8,9 出口
または、東京メトロ東西線「竹橋」1b 出口 徒歩 3 ～ 5 分

提出議案

第 1 号議案 2004 年度事業報告及び収支決算書承認の件 2 頁
第 2 号議案 2005 年度事業計画及び予算案承認の件 4 頁

以上

第 1 号議案（案）

- I. 2004 年度（自 2004 年 7 月 1 日至 2005 年 6 月 30 日）事業報告書
2004 年度に実施した事業は次のとおりである。（事業費 8,181 千円）
- (1) 機関誌等
 - 1) 「科学教育研究」第 28 巻第 3 号、第 4 号（英文号）、第 5 号、第 29 巻第 1 号、第 2 号（印刷中）を刊行し、会員に配布した。科研費補助金研究成果公開促進費の補助を受け「科学教育研究」の拡充を図ることができた。
 - 2) 「科学教育研究レター」No. 164 ～ 169 を刊行し、会員に配布した。
 - 3) 「年会論文集 28」を刊行し、申込者に配布した。
 - (2) 年会
第 28 回年会（2004 年 8 月 6 日（金）～ 8 月 8 日（日））を千葉大学で開催し、研究発表会・課題研究発表会・シンポジウム・ワークショップ等を行った。
 - (3) 学術交流等
 - 1) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、第 9 回シンポジウム「新しい高校「理科」の枠組みについて」（2004 年 12 月 11 日（土））を開催した。
 - 2) 国際交流委員会企画公開シンポジウム「アジアにおける科学教育改革への戦略－タイとイスラエルとの共同を視野に－」（2005 年 6 月 26 日（日））を開催した。
 - (4) 調査研究
学会プロジェクトによる調査・研究を推進し、第 28 回年会の課題研究発表でその成果を公表した。科研費研究成果公開促進費によるシンポジウム「科学教育に関する新しい教育課程への提言に向けて」（2004 年 11 月 6 日（土）国立オリンピック記念青少年総合センター）を開催した。
 - (5) 研究会を年 6 回開催した。
 - 第 1 回：第 1 部会「科学教育戦略研究部会」、2004 年 10 月 29 日（金）・30 日（土）、神戸大学
 - 第 2 回：インタレスト部会 I 「実践で結ぶ科学教育システム」、2004 年 11 月 27 日（土）、長崎大学
 - 第 3 回：第 2 部会「科学教育実践創造研究部会」、2005 年 1 月 15 日（土）、岡山理科大学
 - 第 4 回：インタレスト部会 II 「臨床的研究方法」、2005 年 3 月 26 日（土）、静岡大学
 - 第 5 回：第 3 部会「科学教育 ICT 研究部会」、2005 年 4 月 23 日（土）、福山大学
 - 第 6 回：第 4 部会「科学教育人材養成研究部会」、2005 年 5 月 14 日（土）、上越教育大学
 - (6) 支部活動：全国 10 支部の活動を行った。
 - (7) 学会賞
 - 1) 科学教育実践賞を贈呈した。
 - 中村重太（福岡教育大学）
業績：科学教育における海外との国際協力及び貢献活動
 - 村瀬康一郎（岐阜大学）、○加藤直樹（岐阜大学）
業績：大学・地域共生型による継続的な科学教育実践研究の展開
 - 2) 奨励賞を贈呈した。
 - 舟生日出男（茨城大学）
受賞論文：舟生日出男・山口悦司・稲垣成哲「再構成型コンセプトマップ共同作成ソフトウェアの内省と対話の支援における有効性について」科学教育研究、第 27 巻、第 5 号、pp. 318-332、2003
 - 山下修一（千葉大学）
受賞論文：山下 修一「DIFFICULTIES IN STUDENTS' JUDGMENTS WHEN WORKING IN PAIRS」科学教育研究、第 27 巻、第 4 号、pp. 292-307、2003
 - 3) 年会発表賞を贈呈した。
 - 山本智一（神戸大学発達科学部附属住吉小学校）、○出口明子（神戸大学大学院）、○山口悦司（宮崎大学）、○舟生日出男（茨城大学）、○稲垣成哲（神戸大学）
発表論文名：「子どもたちの協同による知識構築を促進するためのネットワーク版ソフトウェア：小

学校「水溶液の性質」での授業実践事例」

○稲垣成哲（神戸大学）、○竹中真希子（神戸大学大学院）

発表論文名：「カメラ付き携帯電話を利用したフィールドワーク支援システムの開発」

○戸田 孝（琵琶湖博物館）

発表論文名：「学校と博物館のカリキュラム連携のありかた」

(8) 学会 IT 化

会員専用ホームページの利用の普及を図るとともに、インターフェースの安定的運用を行った。

II. 2004 年度（自 2004 年 7 月 1 日至 2005 年 6 月 30 日）収支決算書

収支決算書は、大高 泉、戸北凱惟監事の会計監査を受け、適正と認められた。

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額
(1) 会費	9,353,000	9,224,000	129,000
正会費	8,208,000	7,892,000	316,000
学生会費	190,000	220,000	△ 30,000
公共会費	20,000	20,000	0
賛助会費	135,000	135,000	0
未納分会費	800,000	957,000	△ 157,000
(2) 入会金	100,000	84,000	16,000
(3) 補助金	1,200,000	1,200,000	0
(4) 広告料	120,000	144,000	△ 24,000
(5) 購読料	400,000	305,600	94,400
(6) 著作権料	160,000	121,622	38,378
(7) 雑収入	800,000	878,296	△ 78,296
(8) 会員名簿積立金取崩し	750,000	0	750,000
(9) 前年度繰越収支差額	2,941,117	2,941,117	0
収入合計	15,824,117	14,898,635	925,482
会 費 前 納 分		419,000	

【支出の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額
(1) 管理費	3,932,000	3,665,952	266,048
役員会議等会議費	440,000	43,320	396,680
旅費交通費	1,175,000	1,318,000	△ 143,000
通信運搬費	310,000	447,728	△ 137,728
消耗品費	120,000	67,758	52,242
印刷費	135,000	57,750	77,250
諸謝金	1,097,000	1,238,900	△ 141,900
IT調査・管理費	500,000	378,000	122,000
負担金	95,000	95,396	△ 396
雑費	60,000	19,100	40,900
(2) 事業費	11,516,000	8,181,890	3,334,110
科学教育研究誌	5,325,000	4,507,952	817,048
科学教育研究レター	1,501,000	1,126,272	374,728
ホームページ	100,000	0	100,000
年会	770,000	568,960	201,040
学術交流等	850,000	528,906	321,094
調査・研究	500,000	0	500,000
研究会活動推進	400,000	400,000	0
支部活動推進	570,000	549,800	20,200
会員名簿	1,000,000	0	1,000,000
学会活性化積立金	500,000	500,000	0
(3) 予備費	376,117	19,972	356,145
支出合計	15,824,117	11,867,814	3,956,303
次年度繰越収支差額		3,030,821	

基金 8,852,605

会員名簿積立金 750,089

学会活性化積立金 1,089,982

2 特別会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額
(1) 大塚賞	1,791,792	1,791,710	82
前年度繰越収支差額	1,791,692	1,791,692	0
雑収入	100	18	82
(2) 学会賞	309,399	309,308	91
前年度繰越収支差額	309,299	309,299	0
雑収入	100	9	91
収入合計	2,101,191	2,101,018	173

【支出の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額
(1) 大塚賞	1,791,792	0	1,791,792
大塚賞	110,000	0	110,000
予備費	1,681,792	0	1,681,792
(2) 学会賞	309,399	75,075	234,324
学術賞・論文賞・他	175,000	75,075	99,925
予備費	134,399	0	134,399
支出合計	2,101,191	75,075	2,026,116

【次年度繰越収支差額】

(1) 大塚賞 1,791,710 (2) 学会賞 234,233

第 2 号議案（案）

I. 2005 年度（自 2005 年 7 月 1 日至 2006 年 6 月 30 日）事業計画書

2005 年度に実施する事業は次のとおりである。（事業費 9,946 千円）

- (1) 機関誌等
 - 1) 「科学教育研究」第 29 巻第 3 号、第 4 号（英文号）、第 5 号、第 30 巻第 1 号、第 2 号を刊行し、会員に配布する。科研費補助金研究成果公開促進費の補助を受け「科学教育研究」の拡充を図る。
 - 2) 「科学教育研究レター」No. 170 ～ 176 を刊行し、会員に配布する。
 - 3) 「年会論文集 29」を刊行し、申込者に配布する。
- (2) 年会

第 29 回年会（2005 年 9 月 9 日（金）～ 9 月 11 日（日））を岐阜大学で開催し、研究発表会・課題研究発表会・シンポジウム・ワークショップ等を行う。
- (3) 学術交流等
 - 1) アジア等諸外国の科学教育学会との交流の推進について検討を行う。ICACE 等の国際シンポジウムへの会員の派遣を行う。
 - 2) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、理科教育の発展充実を図る。
- (4) 調査・研究
 - 1) 学会プロジェクトによる調査・研究を推進する。
 - 2) 科研費研究成果公開促進費を受け、シンポジウム「水族館と連携した科学教育・環境教育の方策」（2005 年 11 月 26 日、別府市ビーコンプラザ）を開催する。
- (5) 研究会を年 6 回開催する。

第 1 回：第 5 部会「生活科・総合的な学習において育まれる学力」、2005 年 8 月 26 日（金）、兵庫教育大学・神戸サテライト

第 2 回：第 6 部会「社会・実践者・研究者の真の協働による新しい科学教育研究の構想」、2005 年 9 月 9 日（金）、岐阜大学

第 3 回：第 3 部会「新世紀型理数科系教育と ICT の活用（予定）および一般研究」、2005 年 11 月 5 日（土）、筑波学院大学

第 4 回：第 4 部会「地域と連携した科学教育」、2005 年 11 月 26 日（土）、ビーコンプラザ（別府市）

第 5 回：第 2 部会「理科授業力の向上に関する研究会（暫定）」、2005 年 12 月中旬または 2006 年 1 月上旬、国立教育政策研究所

第 6 回：第 1 部会「内容未定」、2006 年 5 月または 6 月、三重大学
- (6) 支部活動

全国 10 支部の活動を推進する。
- (7) 学会賞
 - 1) 国際貢献賞を贈呈する。

○武村重和（JICA ケニア SMASSE 事務所アカデミックアドバイザー）
業績：「アフリカ諸国の包括的な科学教育制度設計に関する国際貢献」
 - 2) 科学教育実践賞を贈呈する。

○飯島康之（愛知教育大学）
業績：「インターネットを用いた図形の動的探求を支援する学習環境とコンテンツ開発」

○稲垣成哲（神戸大学）、○舟生日出男（茨城大学）、○山口悦司（宮崎大学）
業績：「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの開発と教育実践研究の展開」
 - 3) 論文賞を贈呈する。

○清水欽也（広島大学）
受賞論文：「我が国の理科カリキュラム改訂による一般成人の科学技術理解に対する効果：コーホート分析による「理科離れ」及び「学力低下」の検証」科学教育研究、第 28 巻、第 3 号、pp. 166-175、2004

○磯崎哲夫（広島大学）
受賞論文：「理科教員養成史研究（2）戦前における力量形成の方策としての教育実習の意義」科学教育研究、第 28 巻、第 1 号、pp. 49-59、2004
 - 4) 奨励賞を贈呈する。

○竹中真希子（大分大学）
受賞論文：竹中真希子・稲垣成哲・山口悦司・大島 純・大島律子・中山 迅・山本智一「Web Knowledge Forum に支援されたアナロジーと概念変化」科学教育研究、第 29 巻、第 1 号、pp. 25-38、2005

○里岡亜紀（延岡市立熊野江中学校）
受賞論文：里岡亜紀・中山 迅・山口悦司・伊東嘉宏・串間研之・末吉豊文・永井秀樹「宮崎県総合

博物館と連携した中学校における干潟の理科学習」科学教育研究、第28巻、第2号、pp.122-131、2004

5) 年会発表賞を贈呈する。

○竹中真希子(大分大学)、○黒田秀子(神戸大学発達科学部附属住吉小学校)、○稲垣成哲(神戸大学)

発表論文名:「カメラ付き携帯電話を利用したフィールドワークプログラムの開発と評価:小学校2年生の生活科「冬みつけ」」

○古澤亜紀(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)

発表論文名:「「海」を鍵にした理科の学習 海水の蒸発乾固(岩塩)からみる大陸移動の教材化」

○東原義訓(信州大学)

発表論文名:「科学者の問いの連鎖を追体験する理科デジタル教材の開発」

(8) 学会 IT 化

会員専用ホームページの利用の普及を図るとともに、インターフェイスの改良を行う。

II. 2005 年度(自 2005 年 7 月 1 日至 2006 年 6 月 30 日) 予算書

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	備 考
(1) 会費	9,506,000	
正会員会費	8,336,000	8,000 円× 1,042 名
学生会員会費	215,000	5,000 円× 43 名
公共会員会費	20,000	20,000 円× 1 名
賛助会員会費	135,000	45,000 円× 3 名
未納分会費	800,000	8,000 円× 100 名
(2) 入会金	100,000	1,000 円× 100 名
(3) 補助金	1,300,000	科学研究費補助金
(4) 広告料	120,000	1 社
(5) 購読料	400,000	30 件
(6) 著作権料	120,000	出版著作権、学術著作権、電子図書館
(7) 雑収入	800,000	別刷代金、バックナンバー、利息等
(8) 学会活性化積立金取崩し	500,000	30 周年記念事業等
(9) 前年度繰越収支差額	3,030,821	
収入合計	15,876,821	

【支出の部】

科 目	予 算 額	備 考
(1) 管理費	4,817,000	
役員会議等会議費	490,000	理事会・評議員会等開催費
旅費交通費	1,450,000	理事交通費等
通信運搬費	380,000	庶務・経理文書の発送費、連絡費等
消耗品費	120,000	文房具代、コピー紙代等
印刷費	130,000	封筒印刷費、振込用紙印刷費
諸謝金	1,152,000	学会事務処理(庶務・経理)
IT調査・管理費	950,000	システム運用保守、機能増強等
負担金	95,000	ICASE 会費、日本学術協力財団
雑費	50,000	振込手数料、他
(2) 事業費	9,946,000	
科学教育研究誌	5,205,000	印刷(年5回)、発送、査読謝金等
科学教育研究レター	1,251,000	印刷(年7回)、発送、編集謝金等
ホームページ	100,000	英文ホームページ等
年会	820,000	第30回年会補助、年会企画費等
学術交流等	1,050,000	国際交流、有識者交流等
調査・研究	550,000	30周年記念事業等
研究会活動推進	400,000	報告書印刷等
支部活動推進	570,000	支部分配金等
(3) 選挙管理費	300,000	
(4) 予備費	813,821	
支出合計	15,876,821	

基金 8,852,605 + 利息 会員名簿積立金 750,089 + 利息 学会活性化積立金 589,982 + 利息

2 特別会計

【収入の部】		【支出の部】	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
(1) 大塚賞	1,791,810	(1) 大塚賞	1,791,810
前年度繰越収支差額	1,791,710	大塚賞	110,000
雑収入	100	予備費	1,681,810
(2) 学会賞	234,333	(2) 学会賞	234,333
前年度繰越収支差額	234,233	学術賞・論文賞・他	140,000
雑収入	100	予備費	94,333
収入合計	2,026,143	支出合計	2,026,143

[趣旨]

日本科学教育学会はまもなく創立 30 周年を迎える。この機会に、これまでの研究とその成果をさらに発展させていだけでなく、現代の社会的ニーズに対応する新しい「科学教育研究」の姿の模索も開始している。30 周年記念事業のスローガン「社会に提案し社会と協働する科学教育研究」には、そのような意図が込められている。今の日本社会がどのような科学教育研究を期待しているのかを知ることがその出発点になる。そこで、記念事業の第一歩としての本シンポジウムでは、各界からパネリストをお招きし、「科学教育研究に何を求めたいか」について、率直なご意見をいただき、科学教育研究のコミュニティとして、そのようなご提言をどのように受け止め、どのような具体的な研究が可能となるかを議論したい。

本シンポジウムは、日本科学教育学会会員のみならず、科学教育研究にご関心のある方々に公開（参加費無料）されます。

[日時] 2005 年 7 月 30 日（土）午後 2 時～5 時

[会場] 学術総合センター 2F 中会議室 3・4

（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 地下鉄「神保町」A8,9 出口、「竹橋」1b 出口、徒歩 3～5 分）

[プログラム]

2:00 日本科学教育学会の研究活動（開会挨拶・趣旨説明を兼ねて）

小川正賢（日本科学教育学会・会長）

2:15 科学教育研究に求めたいもの

・メディア・ジャーナリズムの立場から

牧野賢治（日本科学ジャーナリスト会議・前会長）

・科学技術政策立案者の立場から

佐藤明生（文部科学省 科学技術・学術政策局 基盤政策課企画官）

・経済界・産業界の立場から

有信睦弘（株）東芝 執行役常務 研究開発センター所長）

・国際教育協力事業担当者の立場から

角田 学（独立行政法人国際協力機構（JICA）・国際協力専門員）

・科学技術社会論研究者の立場から

小林傳司（日本科学技術社会論学会・前会長）

3:30 科学教育研究者はどう受け止めるか

磯崎哲夫（日本科学教育学会・理事）・磯田正美（日本科学教育学会・理事）

3:50 休憩

4:00 討議（モジュレータ：吉田 淳 日本科学教育学会・理事）

・フロアからの意見陳述（20 分程度）

・自由討議（30 分程度）

4:50 今後に向けて（モジュレータによる総括）10 分

懇親会へのお誘い

既にレター等でご案内の通り、7 月 30 日にシンポジウム「科学教育研究に何が求められているか：社会からの期待」を開催致します。このシンポジウムには各界から著名な方々にパネリストとしてご登壇いただき、科学教育研究に対する様々なご提言が期待されることです。折角の機会ですので、パネリストの方々とはシンポジウムにご参加の皆様が直接意見交換ができる場を設け、さらに議論を深めたいと考えます。下記のとおりシンポジウム後に同会場にて懇親会を行いますので、シンポジウムにご参加の皆さんはふるってご参加ください。

日本科学教育学会事務局

記

[日時] 2005 年 7 月 30 日（土）午後 5 時 30 分～7 時 30 分

[会場] 学術総合センター 3 階喫茶室

[会費] 3,000 円（当日会場でお支払いください）

[申込み] 懇親会への参加を希望する方は 7 月 22 日（金）までに日本科学教育学会事務局（jimukyoku@jsse.jp）宛にメールまたはファックス（(03)3714-0986）で参加者氏名、所属、e-mail アドレスを御連絡ください。

今夏の年会は岐阜大学で開催されます。会員の皆様はもちろん、周囲の方々をお誘いの上、奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

- 1 年会テーマ 社会に提案し社会と協働する科学教育研究を求めて
- 2 期 日 2005 年 9 月 9 日（金）～ 11 日（日）
- 3 会 場 岐阜大学教育学部・岐阜大学共通教育（岐阜市柳戸 1-1）
- 4 年会専用 HP <http://project.crdc.gifu-u.ac.jp/~jsse29/>
- 5 内容（第 5 次の案内以降に確定した企画）

(1) シンポジウム

テーマ：社会に提案し社会と協働する科学教育研究：何を提案し誰と協働するのか

趣旨：本シンポジウムは、7 月 30 日に開催される学会シンポジウム「科学教育研究に何が求められているか：社会からの期待」と対になっている。両者ともに、本学会の 30 周年記念事業スローガンである「社会に提案し社会と協働する科学教育研究」について考察することを共通目的としているが、前者では、その中で、科学教育研究の外にいる方々が、科学教育研究にどのような期待や要望を持っておられるのかをめぐって論議することになっている。それに対して後者では、本学会の内部である学会員の方々が、社会に対して「何を提案し誰と協働する」ことによって、新しい科学教育研究を展開できるのか、について意見提案を行い、論議を深めることがその趣旨となる。

登壇者：楠 房子（多摩美術大学）、永井由佳里（北陸先端大学）、田代英俊（科学技術館）、隅田 学（愛媛大学）、松原克志（常磐大学）

指定討論者：横山隆光（岐阜県羽島市立羽島中学校校長）、尾崎文康（朝日新聞大阪本社）

6 年会参加の申し込みについて

- (1) 年会参加費：一般会員 7,000 円、学生会員 5,000 円（年会論文集代を含む）

但し、7 月末日までに納入の場合は、それぞれ 500 円引きの 6,500 円、4,500 円とします。

- (2) 懇親会費：5,000 円

- (3) 年会論文集（追加購入費）：1 部 3,500 円

- (4) 論文集送料：1 部 500 円、2 部 600 円（年会終了後に郵送します。）

- (5) 弁当代（11 日（日）のみ要予約）：800 円（9/9（金）、10（土）は生協食堂が営業しています）

- (6) 宿泊施設の斡旋は行いません。各自で確保して下さい。

参加費等の送金は、郵便振替用紙で一人につき 1 枚、送金内訳を明記して合計金額を送金してください。各種申込費用及び送金先の郵便振替口座は、次の通りです。

郵便振替口座：00810-2-102993 加入者名：日本科学教育学会第 29 回年会

7 お詫び

ホームページの年会参加受付システムに不具合が見つかり、第 29 回年会案内（第 5 次）で告知しておりました日程で、参加及び一般研究発表の申し込みを受け付けることができませんでした。皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

【お願い】発表でパワーポイントを使われる皆さんへ

発表者が持参されたノートパソコンと会場側で用意したプロジェクタの相性に問題があり、発表の本番でパソコンが起動しなくなったり、パワーポイントがうまく投影できないトラブルが毎年何件か起きています。そういう不幸な事態に見舞われても他の人のパソコンを使って発表だけはできるようにするため、岐阜大会からはパワーポイントのファイルを USB メモリに入れて持参するようにして下さい。「転ばぬ先の杖」です。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本科学教育学会第 213 回理事会報告

(議事録承認前。要点のみ参考掲載)



日時 2005 年 6 月 18 日 (土) 14:00 ~ 18:00
会場 国立教育政策研究所 南館大会議室
出席者 会長：小川 (正)
理事：磯崎、磯田、伊藤、小川 (義)、垣花、熊野、小林、坂谷内、猿田、藤田、村瀬、
吉川、余田
監事：大高、戸北 オブザーバー：稲垣 (年会企画委員長)

1. 議事要録 (案) の承認

○第 212 回理事会議事要録 (案) を承認した。

2. 第 213 回理事会までの持ち回り・メール審議事項 (決定)

○教育実践賞の受賞対象者に関する最終確認結果が報告された。(5 月 27 日)

○ニュースレター送付時の同封物について、「学会の公的文書、公的活動に関する広報物については、その同封を認める」という会長からの提案がメールによる持ち回り審議の上、承認された。(6 月 6 日)

○個人情報保護問題特別委員会最終報告書の改訂版について、当該個人情報保護問題当事者を除く理事会メンバーのみにて持ち回り審議され、承認された。(6 月 7 日)

3. 報告事項

1) 経理・会員

○来年度会費の請求を行った。(6 月 13 日)

○監査会を行った。(6 月 17 日)

2) 機関誌編集

○第 29 巻第 2 号 (特集号) の準備 1 編 (研究論文 1 編)

(「新世紀型理数科系教育」依頼原稿 6 編のうち最低 4 編と一般投稿論文 4 編で発行)

第 29 巻第 3 号 (和文号) の準備 8 編 (総説・展望 1 編、研究論文 1 編、実践論文 5 編、ブラザ 1 編、巻頭言：大木先生)

第 29 巻第 4 号 (英文号) の準備 0 編

第 29 巻第 5 号 (和文号) の準備 5 編 (研究論文 2 編、実践論文 3 編)

○審査中論文 31 編 (和文 26 編、英文 5 編)

3) 国際

○国際交流委員会作成の年会用外国人向け HP について報告があった。

○国際交流シンポジウム (6 月 26 日) の準備状況について報告があった。

4) 広報

○レター 169 号を 6 月 15 日に発行した。Web 版は同日。

○レター 170 号は 7 月 15 日に発行予定。締切 6 月 30 日。総会の議案、第 213 回理事会だより、等。

○レター 171 号は 8 月中旬に発行予定。第 29 回年会プログラム、学会賞、等。

5) 年会・学会賞

○年会企画委員会、学会賞選考結果について報告があった。

6) 調査研究

○教育課程に関する調査研究・検討会について、立ち上げの準備中であることが報告された。

7) 学術交流

○教科「理科」関連学会協議会に対応すべく、科学教育研究検討 WG の立ち上げに関して、委員の選定中であることが報告された。

8) 事務局

○「青少年のための科学の祭典 2005」名義使用許可願を受け付け (5 月 20 日)、使用許可承認文書を送付した。(5 月 23 日)

○「平成 18 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補推薦依頼」を受け付けた。(6 月 2 日)

○「第 2 回 (平成 17 年度) 日本学術振興会賞受賞候補者推薦依頼」を受け付けた。(6 月 2 日)

○アンケート調査対象者となった会員の皆様へ謝罪文書を送付した。(6 月 10 日)

○武村重和会員の年会派遣依頼を JICA 本部宛送付した。(6 月 13 日)

○レター 169 号、国際交流シンポジウムのチラシを送付した。(6 月 15 日)

- 会員への謝罪文書、特別委員会最終報告書を送付した。(6月15日)
- 「電子アーカイブ対象候補誌基礎調査への協力願い」を受け、回答した。(6月15日)
- 会員専用ホームページ用サーバのハードディスク交換。(6月16日)
- 学会シンポジウム「科学教育研究に何が求められているか：社会からの期待」シンポジストへの依頼状を送付した。(6月17日)

4. 協議事項

1) 入退会希望者等について

- 入会希望者 10 名、退会希望者 2 名が承認された。
[入会希望者]

非 公 開

* 現在会員数 1,221 名

(正会員 1,176 名、学生会員 29 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名、名誉会員 12 名)

※今年度末退会 32 名(正会員 30 名、学生 2 名)を含む。次年度入会 14 名(正会員 10 名、学生 4 名)を含まない。

[除籍候補者](2001 年度会費～2004 年度未納)

非 公 開

- 2) NSTA との連携・協定の可能性について、学会としての対応策を国際交流委員会で検討し、原案を作成することとなった。
- 3) 学会サーバ管理会社の事情でサーバ移設が必要という提案があり、年会受付等へ緊急対応するために、提案に基づき、速やかに移設し、セキュリティ面も含めて現状を維持すべきであることが承認された。
- 4) 2004 年度収支決算書・2005 年度予算書(案)について、一部修正の上、承認された。
- 5) 第 29 回定時総会の議事案件について、一部修正の上、承認された。
- 6) 「個人情報保護管理委員会(仮称)」の規則(草案)が提案され、7 月 1 日の設置に向けて、所掌事項の見直しと委員の人選を早急に行うこととなった。
- 7) 研究会の運営について、経理の一元化が提案され、研究報告の電子媒体化も含み、今後検討を続けることとした。

次回第 214 回理事会予定 2005 年 9 月 11 日(日)11 時 30 分から 12 時 30 分 岐阜大学

事務局からのお知らせ

本学会では、会員への発送物に宛名シールを利用しています。この宛名シールの最終行には、会員番号と会員種別が印刷されています。この情報は、本学会にとっての個人情報にあたるものですが、次の理由で印刷されています。ご理解の上、お認めいただくようお願い申し上げます。

(1) 封入作業において、会員番号・会員種別によって封入物が異なる場合、その作業の円滑性、正確性を期すためのチェックのため必要です。

(2) 経理関連業務(入金情報を銀行通帳等で確認する等)に関して寄せられる数多くの問い合わせに迅速に対応するためには、会員番号・会員種別が必須です。しかし、問い合わせをする会員の多くが会員番号を失念しており、このような会員の便宜を図るとともに、事務局側の業務の円滑化、効率化を図るために必要です。

(3) 国内外の多くの学会の宛名シールでは、会員番号等、「配送」には直接関係のない情報が印刷されており、本学会の宛名シールが特殊ではないと考えます。

このたび、宛名シールの最終行に印刷されている会員番号・会員種別は以下のような規則に基づいています。

XXXX* : XXXX は 4 桁の会員番号で、* は会員種別を表します。会員種別は、正会員は「R」、学生会員は「S」、名誉会員は「H」、公共会員は「P」、賛助会員は「Q」です。

なお、本学会では、7 月から機能を開始する「個人情報保護管理委員会」において、「会員の個人情報の使用ルール」が決まり、「宛名シールへの会員番号等の印字」問題も解決されると思います。それまで、上記の方法は暫定的な処置と考えております。

平成17年度 第1回研究会開催のお知らせ
 第5部会：インタレスト部会Ⅰ(生活科・総合的な学習)

- [テーマ] これからの日本の教育における総合的な学習の役割
 本年度に入り、文部科学省から先に行われた小・中学校教育課程実施状況調査の結果が公表された。これを見る限りでは子どもたちのいわゆる学力低下に歯止めがかかったようにみえる。本研究会では今後の我が国の教育について多様な立場・視点から意見を交換するとともに、生活科や総合的な学習のあり方について考えていきたい。
- [共催] 兵庫教育大学総合学習系教育講座
- [日時] 平成17年8月26日(金)11:00～17:00
- [会場] 兵庫教育大学大学院・夜間神戸サテライト(パルモア学院内)・講義室(5F)・ホール(6F)
 兵庫県神戸市中央区北長狭通4-7-30 パルモア学院内
http://www.office.hyogo-u.ac.jp/office/new_master_ent/m_satellite.files/satellite2.pdf
- [交通] JR阪神元町駅下車、東出口から北へ約100m
 市営地下鉄県庁前駅下車、東出口2から南東へ約100m
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。当日参加も可能です。
- [参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加者(『研究会研究報告』誌付き)は1,000円、参加のみの方は500円、新規『研究報告』誌購読希望会員は4,000円です。
- [担当] 松本伸示(兵庫教育大学総合学習系教育講座)
- [連絡・問い合わせ先] 〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1
 兵庫教育大学総合学習系教育講座 松本伸示(内線2207)、佐藤真(内線2219)
 Tel & Fax: (0795)44-2207 e-mail: smatsumo@sci.hyogo-u.ac.jp
 本研究会用ホームページ: <http://www.life.hyogo-u.ac.jp/sogo/top/sogohyosi.htm>

<プログラム>

(I) ミニ研究発表会(5F: 講義室)

<A会場>

- 11:00～11:20 幼少連携を見据えた日常的知識構造の解析
 名古屋市立汐路小学校 阿部路代
- 11:20～11:40 Reasoning Skill の評価を活かした思考力育成プログラムの開発 -「子どものための哲学」
 授業を通して-
 日南市立鉄肥小学校 水谷浩文
- 11:40～12:00 メタ認知を促す方略の研究 -「総合的な学習の時間」における問題解決糧に着目して-
 甲賀市立希望ヶ丘小学校 古賀智子

<B会場>

- 11:00～11:20 遺伝子組換え食品に対する社会的意思決定をテーマとしたCSCLシステム活用型 -カリキュラム:2004年版カリキュラムを学習した小学生の概念的理解とイメージの変容-
 神戸大学大学院総合人間科学研究科/神戸大学発達科学部附属住吉小学校 ○藤本雅司、神戸大学発達科学部 稲垣成哲、大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター 竹中真希子、宮崎大学教育文化学部 山口悦司、兵庫教育大学学校教育研究科 坂本美紀、静岡大学総合情報処理センター 大島 純、中京大学通信制大学院情報科学研究科 大島律子、静岡大学教育学部 村山 功、宮崎大学教育文化学部 中山 迅、神戸大学発達科学部 近江戸伸子、神戸大学発達科学部附属住吉小学校 山本智一、神戸大学発達科学部附属住吉小学校 橘 早苗、西宮市立西宮浜小学校 竹下裕子
- 11:20～11:40 中学校におけるエネルギー変換学習のための教材開発 -自然エネルギーを中心として-
 兵庫教育大学大学院 ○綾 美幸、兵庫教育大学 小川武範
- 11:40～12:00 中学生の数学に対する捉え方の一考察 -「選択数学」履修生徒の学習過程の分析を通して-
 大阪市立城陽中学校 和家祥一

(II) シンポジウム(6F: ホール)

- | | | |
|-----------------------|---|----------------------|
| 13:00～13:10 挨拶 | 兵庫教育大学副学長 | 勝野真吾 |
| 13:10～13:30 趣旨説明 | 兵庫県教育委員会主任指導主事兼係長 | 關 敏之 |
| 13:30～14:30 基調講演 | 上智大学総合人間科学部教育学科教授 | 奈須正裕 |
| 14:30～14:45 休憩 | | |
| 14:45～15:45 問題提起・実践報告 | 宝塚市立安倉北小学校教諭
福崎町立福崎西中学校教諭
広島大学大学院教育学研究科講師 | 後藤勝徳
鎌田雅弘
溝邊和成 |
| 15:45～16:45 全体討議・質疑応答 | 進行: 兵庫教育大学大学院学校教育研究科助教授 | 佐藤 真 |
| 16:45～17:00 総括 | 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授 | 小川武範 |

平成 17 年度 第 2 回研究会開催のお知らせ
第 6 部会：インタレスト部会 II

- [テーマ] 社会・実践者・研究者の真の協働による新しい科学教育研究の構想
[発表形式] ポスター発表のみです。第 2 回研究会では、従来の口頭発表の形式は採用していません。ご注意ください。
- [共催] 日本科学教育学会 若手の会
[日時] 平成 17 年 9 月 9 日 (金) 18 時～20 時 (時間帯は予定)
[内容] 研究発表: 18 時～19 時、講演: 19 時～20 時。なお、講演は、小川正賢氏 (神戸大学) による『社会・実践者・研究者の真の協働による新しい科学教育研究の構想』(予定)です。
- [会場] 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学
[アクセス] 【JR】岐阜駅までは名古屋駅から快速で 20 分程度。岐阜駅前から岐阜バス (岐阜大キャンパス線) で約 30 分 (310 円、約 15 分おきに発車)、またはタクシーで約 20 分 (2000 円程度)。岐阜バスの時刻表・乗り場については、次の URL をご参照ください。
<http://www.gifubus.co.jp/noriai/>
- [発表申込方法] テーマにかかわるものを中心としますが、それ以外の一般研究発表も歓迎いたします。研究発表題目、氏名、所属 (共同研究者を含む、複数の場合は登壇者に○をつける)、連絡先 (住所・電話・e-mail)、発表概要を電子メールで、下記連絡先までお知らせください。折り返し、『研究報告』誌原稿執筆要項等をお届けします。
- [発表申込締切] 平成 17 年 7 月 8 日 (金) (申込み受付は終了致しました)
[原稿提出締切] 平成 17 年 8 月 8 日 (月)
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。当日参加も可能です。
[参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加 (『研究報告』誌付き) は 1,000 円、参加のみは 500 円、新規購読会員は 4,000 円です。また、当日は、ナイトセッションのため、軽食を用意しますので、参加者全員に、食事代として 1,000 円 (予定) をお願いします。本研究会は、年會時に同じ会場で開催しますが、参加費等は別会計ですのでご注意ください。
- [担当] 稲垣成哲 (神戸大学発達科学部)、銀島 文 (金沢大学教育学部)、辻 宏子 (北海道教育大学)、久保田英慈 (愛知産業大学三河中学校)、森田裕介 (長崎大学)
- [連絡先] 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
神戸大学発達科学部 稲垣成哲 e-mail: inagakis@kobe-u.ac.jp
本研究会用ホームページ: <http://human.h.kobe-u.ac.jp/jsse2/index.html>
※本研究会用 HP では随時研究会の内容について情報を更新していきます。

平成 17 年度 第 3 回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加へのお誘い
第 3 部会：科学教育 ICT 研究部会

- [テーマ] 新世紀型理数科系教育と ICT の活用 (予定)
[日時] 平成 17 年 11 月 5 日 (土) 10 時～17 時 (時間帯は予定)
[共催] 科学研究費特定領域研究「新世紀型理数科系教育の展開研究」A04 (予定)、日本科学教育学会 北関東支部
- [内容] 特定領域研究「新世紀型理数科系教育の展開研究」とのジョイント研究会とし、研究学園都市の各種研究所の研究者、実践者から理数科系教育への意見を求める。特に、開発されたシステムやコンテンツの紹介に加え、試行した結果を小中高校等の実践者からも報告していただきたい。
- [会場] 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 3-1 筑波学院大学
[交通] つくばエクスプレス、東京・秋葉原から 45 分、「つくば駅」下車、徒歩 7 分。JR 常磐線土浦駅下車、西口 (バスのりば 2 番) から関東鉄道バス筑波大学中央行き、約 25 分で筑波女子大学 (筑波学院大学) 下車。JR 常磐線ひたち野うしく駅下車、関東鉄道バスまたは JR バス筑波大学中央行き、約 25 分で筑波女子大学 (筑波学院大学) 下車。東京駅八重洲南口から高速バス (特急つくば号) で約 65 分、つくばセンター下車徒歩 7 分。
詳細は http://www.tsukuba-g.ac.jp/access/train_navi.html を参照してください。
- [発表申込方法] テーマにかかわるものを中心としますが、それ以外の一般研究発表も歓迎いたします。研究発表題目、氏名、所属 (共同研究者を含む、複数の場合は登壇者に○をつける)、連絡先 (住所・電話・e-mail)、発表概要を電子メールで、下記連絡先までお知らせください。折り返し、『研究報告』誌原稿執筆要項等をお届けします。
- [発表申込締切] 平成 17 年 9 月 16 日 (金)
[原稿提出締切] 平成 17 年 9 月 30 日 (金)
- [参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。当日参加も可能です。
[参加費] 『研究報告』誌購読会員は無料、当日参加 (『研究報告』誌付き) は 1,000 円、参加のみは 500 円、新規購読会員は 4,000 円です。
- [担当] 垣花京子 (筑波学院大学情報コミュニケーション学部)

[連絡・問合せ先] 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 3-1 筑波学院大学情報コミュニケーション学部
 垣花京子(内線 902)、高藤清美(内線 921)
 Tel: (029)858-4811(代表) Fax: (029)856-0441 e-mail: jsse@tsukuba-g.ac.jp
 [その他] 研究会終了後、懇親会を予定しています。参加を希望される方は10月30日(月)までに
jsse@tsukuba-g.ac.jp にお申込み下さい。

平成17年度 日本科学教育学会研究会 開催予定

- 第4回研究会(第4部会「科学教育人材養成研究部会」)
 テーマ 地域と連携した科学教育
 日程 平成17年11月26日(土)
 内容 シンポジウムと研究発表会を通して、地域連携や人材育成の実態と課題を明らかにしつつ、地域の諸施設や人材をどのように生かして効果的な科学教育を展開すべきかについて議論を深める。
 会場 別府市内のビーコン・プラザ
 担当者 牧野治敏(大分大学)(代表)、工藤康紀(大分工業高専)、三次徳二(大分大学)、竹中真希子(大分大学)
- 第5回研究会(第2部会「科学教育実践創造研究部会」)
 テーマ 理科授業力の向上に関する研究会(仮)
 日程 平成18年1月上旬
 会場 国立教育政策研究所
 担当者 小倉 康(国立教育政策研究所)
- 第6回研究会(第1部会「科学教育戦略研究部会」)
 テーマ 未定
 日程 平成18年5月または6月
 会場校 三重大学教育学部附属教育実践総合センター
 担当者 下村 勉(三重大学)

平成16年度日本科学教育学会研究会『研究報告』誌購読費納入のお願い

研究会「研究報告」購読料の請求(払込取扱票同封)を行ったところです。下記の口座へお振込み頂きますようお願いいたします。購読料(年会費)4,000円です。平成17年度の会計年度は、平成17年7月1日～平成18年6月30日となります。なお、ご自分の振込み状況を知りたい方は tkoba@juen.ac.jp へメールでお問合せください。

日本科学教育学会 研究会事務局

研究会事務局(全体・諸連絡)
 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学自然系教育講座 小林辰至
 TEL&FAX: (025)521-3434 e-mail: tkoba@juen.ac.jp
 研究会事務局(編集・印刷)
 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学学習臨床講座 藤岡達也
 TEL: (025)521-3500 e-mail: fujioka@juen.ac.jp
 ○発表申込先: 開催校担当者または研究会事務局(全体・諸連絡)
 ○原稿送付先: 上越教育大学 藤岡達也 宛
 ○『研究報告』誌購読費(年会費4,000円)振込先: 郵便局払込取扱票にて
 加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183
 ○研究会ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第170号を、お送りいたします。お気づきの点などございましたら、下記メールアドレスまでお知らせください。

担当理事: 吉川 厚 (NTT データ)	磯崎哲夫 (広島大)	
委員: 大辻 永 (茨城大)	川本佳代 (広島市立大)	銀島 文 (金沢大)
	清水欽也 (広島大)	杉本雅則 (東京大)
	高垣マユミ (鎌倉女子大)	高藤清美 (筑波学院大)
	森田裕介 (長崎大)	人見久城 (宇都宮大)
幹 事: 竹中真希子 (大分大)	山口悦司 (宮崎大)	

科学教育研究レター編集・印刷

〒153-8681 東京都目黒区目黒 6-5-22 国立教育政策研究所内 日本科学教育学会広報委員会
 TEL: (070)5541-6615 FAX: (03)3714-0986 e-mail: jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp